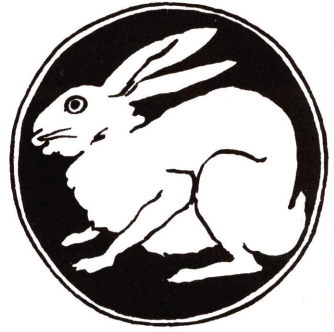


婦人子ども



大正四年四月十日

第十五卷  
第四號



フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

第十五卷第四號目次

今回幼稚園關係者大會

獨逸の婦人と子ども

三田 谷 啓

關西保育界とモンテッソーリ女史教育思想

膳 た け

ビップの話

岡田 み つ

麻疹の話

石塚 保 吉

雜 錄

フレーベル追懷錄

本誌定價

一冊 郵稅共金拾壹錢 六冊前金郵稅共九拾錢  
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は  
東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、  
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々  
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正四年三月十五日印刷  
大正四年三月十日發行

編輯兼發行者 倉 橋 惣 三  
東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四番地

印刷者 東京市本所區番場町四番地 登  
印刷所 東京市本所區番場町四番地 井

發行所 東京市小石川區久堅町七十四番地  
フレーベル會

# フレール紀念會

四月二十一日(水曜日)午後三時半より

東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて

講演

フレール所感

東京女子高等師範學校教授  
文士

下田次郎氏

なるべく多數の方々と共に、有益に有趣味に、此のフレールの誕生  
日を紀念したひと思ひます。

四月

フレール會

羽仁とも子主幹

# 子供之友

婦人之友社が年來の宿志によつて、昨年四月から出して居ります十分教育的なる子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるゝ御家庭におすゝめ致します。

東京 振替 雑司 谷番  
六〇〇六

婦人之友社

定価 十一銭半  
分税 六銭  
郵 六銭

# 全國幼稚園關係者大會

來る八月三、四、五の三日間を期して開催せられんとする全國幼稚園關係者大會は、蓋し全國幼稚園關係者の久しき宿望の實現に他ならない。我國の幼稚園教育は、他の教育に比して、其歴史必ずしも短いものではない。單に短くないのみでなく、其間幾多の誠實なる熱心家によつて、其成績の舉がれるもの尠くない。従つて我國民の教養の上に貢獻せる處亦尠しとしないのである。たゞ、國民義務教育の如く數に於て普及せざると、諸高等教育の如く其成績の輪劃の顯著ならざるものたるによつて、何となく微々として振はばるの觀なきを得ざること久しかつた。しかるに、近年に至つて此の教育の機運全國に亘つて稍々熟せんとするの勢がある。而して、此の新機運の因をなすもの必ずしも一つならずであるが、其最も主となるものは、幼稚園關係者自身の覺醒に他ならない。而し

て其の覺醒は、吾人の見る處によれば極めて多方面の覺醒である。先づ我國民教養上に於ける幼稚園教育者の責任、幼稚園教育の理論的及び實際的専門研究の必要、幼稚園教育の効果を大ならしむる爲に必要な諸般の國家的社會的問題の解決の急務、其の他曰く何、曰く何、實に之等すべての方面に於て、急激なる覺醒を促されて來たのである。茲に全國の幼稚園關係者は、其の各自の園に立籠つて、獨り誠心を盡すのみを以て心足り得ざるに至つた。相共に會し、相共に議し、相共に研究し、相共に企畫するの必要を感じざるを得ざるに至つた。之れ全國幼稚園教育者大會が我國に特に開催せらるゝに至つた自然の要求である。

扱て、斯くの如き自然の機運と要求とによつて開かるゝ全國幼稚園關係者大會は、如何にして其目的を充分に到達し得、其結果を實質的に有効な

らしめ得べきか、之れが爲には有力なる顧問商議員、多數の委員諸君によつて、夫々適切なる指導と計畫とを行はるゝ筈であるが、特に吾人の期待する處のものは、參會者諸君の熱心である。吾人は參會者の數に於て質に於て、實は全國幼稚園關係者大會の名に背くことなく、充分に其の内容を充實せしめ度いことを専心希望するものである。即ち全國の幼稚園教育に直接間接關係を有せらるゝ方々の、舉つて參會せらるゝことを切望するの

である。又その各參會者が此の會の効果を充分有益ならしむる様其の力を竭されんことを切望するのである。

來る大會の日よ。我國の熱心なる幼稚園關係者を舉げて一堂に會し、互に胸襟を開いて其の研究を語り、意見を議し、内に互に利する處多く、外に天下の注意を促し、以て我國幼稚園教育の改良上進を圖るの日よ、其の日は如何に重要にして樂しき日なるべきよ。

## 獨逸の婦人とこども

ドクトル 三 田 谷 啓

(三田谷ドクトルは長く獨逸に留學して先般戰亂の始まると共に歸朝せられました。之れは最近獨逸を知る有益なお土産話であります。編者)

### 獨逸の婦人

獨逸の婦人は家政が上手だと他國の人が賞めま  
す。私は在獨中度々中流以上の家庭から招がれて

多くの家婦に接しました。獨逸婦人の家政のやり方を見ると實際上手です。一體物事を上手に整理すると云ふことは獨逸人の氣質でありますからこれが家庭の内によく現れて居ります。實際室内と

云ひ厨と云ひ誠によく整つて居ります。厨をお見せ下されと言へば何時でも喜んで見せてくれます。寢室でも物置でも直ぐに見せてくれます。私はいろ／＼こんなところまで見せて貰ひました。夏休みの時節等には諸處の家庭から招かれて一週間も其家庭の人となつて暮したことなどありません。外國人殊に我々のやうな毛色の變つたものを丁寧に親切に取扱つてくれる人も少くはないのです。

物事を整理することが上手である如く、獨逸婦人は又時間の整理が上手です。働くことと遊ぶこととがよく時間的に區別してあります。遊ぶ時間にはよく遊びます。饒舌も中々やります。併し愈働くとなると一生懸命です。脇見もせずによります。事務の時には無駄口は決して申しませぬ。事務用の訪問などは二分や三分でどし々とやつてのけます。それだから今日は何時から何時まで何軒訪問をすると言へば實際豫定通りに出来るのです。

獨逸の婦人は常識が發達して居ります。そして随分科學的です。日本の飯などたくことを一度教へてやると其次から多少に拘はらず出来損ひなどをせずにうまくたきます。これは何にも六かしくはないのです。米と水と時間の比例をチャンと土臺にして居るからであります。

厨の整頓して居ることも實際美ましいです。勿論便利に且清潔にしてあります。私は日本の厨のことを思うとあまりに其差がひどいので悲しくなります。

清潔と言ふことも中々八間敷申します。日曜日には普通洗ひたての襯衣とか肌着とかに更へるのです。洗濯日と言ふものが月に一度とか二度とかあります。其時まで洗濯物は一緒に置いて置いて洗濯日にかためてやつてしまうのです。襟であらうが白襯衣であらうが皆家でやつてしまうのです。

## 婦人の身體

獨逸の婦人は概して肥つて居ります。獨逸から英國に行くときあまりに英國婦人の細いのに驚かされます。

近頃のしらべによると獨逸の婦人の平均壽命は五十五年にも達したと言ふことです。成る程婦人の身體が強くなるのは理もです。身體の練習と言ふことは盛に行はれて居ります。幼少の時から冬になると氷滑りや橇乗りなどを盛にやり、又小學校時代になると年中水泳をやる。山登りをする。遠足をやると言ふわけで、既に母になつた人々でも體育のためにとて年中水泳をやるのか、冬になると橇乗、氷滑等もやるのです。

それだから婦人でも中々強いものです。大きな物入カバンに馬鈴薯や果物などウンと買い込んで市場から平氣で下げて歸ります。夏になると山登りなどを致しますが重たい囊を背中に負ひ險しい

山などをあの釘の付いた重たい靴をはいて上るのです。中々強いものです。又橇乗、「シー」等を見ても如何に婦人が劇しい運動に堪え得るかがわかります。

## 婦人と職業

生活がますます々々困難になる結果、獨逸でも婦人の職業を求める人は益々殖えて參りました。生活問題は實地問題中最も直接の問題です。結婚が中困難です。そこで先づ就職の途を求めるのです。今日は男女混戦の有様であります。資本のあるものは大學に入るとか其他の學校で高等教育を受けます。醫學、音樂、哲學、文學等を修めて居る女子の大學生は中々あります。男子の中に交ざつて同じやうに修業するのです。併し學資のないものは小學校を出ると簿記、速記等と言ふ補習教育をうけて早く實地に著き生活の途を講ずるのです。それですから女子の獨立心とか經濟思想と言ふ



ものは中々發達して居ります。

## 結婚問題

小學校を出ると大抵のものは直接生活問題に觸れずに居られませぬ。職業難も結婚難のために起つて來るのが多いのです。獨逸では男子より女子の數が多いのです。其上に結婚せぬ男子が甚だ多くあります。實際結婚が出來ないのです。中には出來る身分の人でも殊更やらぬ人があります。その結果女子にして結婚し得ないものが中々澤山あります。娘を持つ親は先づ結婚は出來ないものとして其娘に職業を選ばせるのです。

結婚難はますます劇しくなる傾きがあります。

結婚さへ出來れば外國人であらうが異人であらうが少しも辭せぬものが中々澤山になると言ふ有様です。

## 婦人の社會事業

獨逸人は一體ものを組織することが上手です。

會の組織も上手にやります。婦人が社會的に種々の事業を致すことも近頃は盛になつて參り、婦人の數は非常に多くあります。獨逸の婦人が社會的事業を初め出しましたのはあまり古いことではありませぬ。今から凡そ五十年前即ち千八百六十五年にライプツヒで獨逸婦人會が起されましたそれから柏林に出來、次で他の都市にも起り、今日存在して居る婦人會の數は幾千と言ふ程です。從て其目的も中々いろ／＼分かれて居ります。

凡そ婦人の社會事業としてどんなことが行はれて居るかを申しあげますと先づ次ぎの如きものでせう。

婦人問題の一般を研究するもの

職業に關するもの

慈善、保護に關するもの

經濟、法律に關するもの

教育、學術、藝術に關するもの

體育、遊戲、運動に關するもの

禁酒に關するもの

風俗、道德、習慣等に關するもの

また其他にもあるでせう、そして其事業の方法はどう言ふ風に致して居るかと申しますと第一集會であります。總會、例會、講演會等をやりまゝす。次は出版で、機關雜誌、趣意書、類書、著述等、其次には陳列場、展覽會、それから圖書館、講習會等であります。

然るに今より二十年程前に獨逸婦人會同盟と言ふものが出來ました。即ち千八百九十四年に起されたのです。これは諸種雜多の目的と有せる婦人會が同盟して互に聯絡をとると言ふ目的で誠に都合のよい企であります。この同盟に加入して居る婦人會の数が二千四百餘あります。此婦人會に屬せる會員の数は約五十萬であります。兎も角五十萬も會員があれば大きなものです。同盟會の方には七人の幹事が居て事務を執つて居り、總會は

二年目に一度づゝ開かるるのです。同盟會からは數種の雜誌が出て居ます。

私は時々婦人會にも出席致し獨逸婦人の働きぶりや、おてなみをチャヨツと拜見に參りました。中中上手です。チャキヤ々々とうまく進行させてゆくところはえらいものだと思ひました。時には數千人の聽集を得て婦人大演說會などをやります。辯士は悉く婦人で正々堂々と大議論を吐きます。講演の後には男子が討論に出る。女子が反駁する混戦になる。中々盛なものです。

私は獨逸及び英國で「日本の婦人」と言ふ題で講演を試みたことがあります。何れも中々盛でした。獨逸婦人で「日本婦人」といふ講演を致すと言ふ豫告が出て居たのを見ましたが丁度其當日は英國へ旅行に出かける筈になつて居たので、私は其講演者の婦人に一書を送り面會を求めました。翌日返事が來て面會の日を示してありました。いよ々々其婦人に逢つた上私は其婦人が觀たる日本婦人に

關して種々質問し且講演の内容なども聞いたことがありました。

話が横路に外れましたが兎に角婦人社會では外國婦人の性格と言ふことも興味を持つて研究して居るのです。一體婦人のみならず獨逸の國民は道が世界主義の國民だけあつて女、子どもに至るまで世界的智識を得るために勉めて居たのであります。

思ふに獨逸婦人の社會事業はます々々進歩することゝ信じます。外國に於ける獨逸婦人も中々多くの會を造つてよく組織しよく活動して居ります。

### 獨逸のこども

日本のこどもは躰がよいと外國人は言ひます。

柔順なからです。併し實際日本の兒童教育が理想的だとは言へぬふしが少からず發見されます。

獨逸のこどもはあまり柔順ではありません。又餘程兒童に自由が許してあります。お客さまの前だから特に大人しくせよなどと親が兒に申しませ

ぬ。併し義務と責任と言ふことを親は早くから兒童の頭へ刻みこませます。刻みこむなどと言ふ特別の考はないのでせうけれども、國民の考が義務と責任に對し深いからツヒ斯くなるのだと思はれます。こどもに何か品物をやると其親はお禮はこどもから言はせまうと言つて親は何とも申しませぬ。こどもは自分がお禮を言ふ義務があることを悟ります。

權利だの義務だの言ふことは矢張こどもの時代よりそれとはなしに幕ぶものと見えます。自分に權利のあることはドシ々とやつて來ます。

### こどもの身體操練

獨逸のこどもは盛に身體操練をやります。冬と言はず、夏と言はずこどもに盛に運動をやらせまう。雪でもふれば男女のこどもは寢食を忘れて櫓遊び等を致しますこの運動のすきな性質が生涯を通じて獨逸國民に現はれて居ります。

强健な國民を造ると言ふのは獨逸の主義でありますから、種々の方面からこのことを研究して居るのであります。

### こどもの保護

獨逸に於けるこどもの保護は中々行き届いたものです、乳兒の保護。學校前の兒童保護、學校時代の兒童の保護、小學校後の兒童の保護と言ふやうに中々種々出來て居ります。或は又兒童勞働保護法など言ふものが出來て居て一定の度を越えて兒童に勞働をさせぬやうになつて居ります。其他脆弱兒童、疾病恢復期の兒童、貧民兒童等に對する保護も中々進んだものです。

我東京でも幼少の兒童に夕方晩くまで夕刊賣りをさせて居るものが中々澤山あります。私は實際二三の兒女に就て其勞働の劇しいことを訊しました放課後直ちに夕刊賣に出て十時過までも踏傍にイむことは中々の仕事である。又燐寸製造だとか

封筒張だとか言ふことにこどもを盛に使役して居るものが我邦の都會にあると申します。工場法案すらまだしきれない世の中であるから心細いことである。

私がある時歐羅巴で講演を致しました時に獨逸人がこう言ひました。日本のこどもは躰がよいのに小學校を出ると職に就き、近頃日本工業の進歩した結果職工となり、職工衛生の顧みられざるため結核や其外の疾病に罹り、折角よく育て上げたものが臺なしにされつつある。惜しむべきことではないかと申しました。實際我邦の狀態は斯うなんです。私はこれを聞いて赤面の至りだと思ひました。獨逸で學校の外に家庭と社會でこどもを保護して居ることはまことに喜ばしいことであります。教育の目的を達するにはどうしても學校だけではうまく行かぬ。不具の教育たるを免れませぬ家庭と社會が共に力を入れてくれねば効果はあがりませぬ。

# 關西保育界とモンテッソーリ—女史教育思想

大阪市江戸堀幼稚園 膳 た け

（大阪市保母諸君は檜崎文學士より心理學の講習をうけ常に根本的研究をせられてありますが更に本年に入りては同學士の指導のもとに各自の調査研究を互に發表する會を有志の間に初められました。此の一篇は同會に於ける膳たけ氏の報告であります。編者）

私共の初めて女史の名を知りたるは、今より四  
年以前（明治四十五年五月）神戸市に於て京阪神聯  
合保育會の開催せられたる際、倉橋文學士の御紹  
介による。聯合保育會に於て先生は保育の新標目  
と云ふ題目にて御講演あり、其御講演中に自由と  
云ふことに就て、伊多利なるモンテッソーリ女史  
のことに就き鳥渡御紹介ありたり。其夜は茶話會  
を開催せられ其席上に於てもモンテッソーリ女史  
のことに就き御話出でたり。されど其内容を詳し  
く承るを得ざりしを以て爾來其實際の方法並に女  
史教育主義に就て委敷知りたしと苦心せしが、未  
だ其れを求むる努力の足らざるものにや徒らに時  
日を経過なし居るのみなりき。然るに茲に感謝せ

ざるべからざるは神戸幼稚園長望月くに氏にて同  
氏はモンテッソーリ女史を研究せらるゝ心深く、  
恰も雜誌『教育學術界』に京都大學助教授文學士野  
上俊夫先生の女史の著『科學的教育學』を詳細に解  
說せられ居るを以て、自分にも是非一讀せよとて  
其雜誌を貸與せられたり。私共は女史の事蹟を知  
らんと切望せる折柄の事とて。飛立計に嬉敷、直  
に再三熟讀して女史の經歷並に兒童の家の事に就  
ても大略了解するを得たり。併しなから玩具の如  
き實際の形體等を實見せざる故、只紙上の掲載の  
みにては今一際物たらぬ感じせられ、何とかして  
其玩具の圖形の如きものに依りてなりとも知り度  
ものと思ひ居る折柄、熱心に求むれば又之に對し

與へらるゝ篤志家もあるものにて、又もや望月氏

御熱心により、同氏の知人なる西洋婦人の方より

此玩具の寫眞帖の如きものを借り受け、神戸幼稚園

園の職員一同協力一致せられて之れを謄寫せられ

又彩色の如きも成へく實際と違はぬ様に注意せられ、

未だ一見せざる多くの人々の爲め見せばやとの

厚き御志より十數冊を作られ、東京なる倉橋先生

生神戸市各幼稚園及び大阪市保育會並に弊園にも

一冊を寄贈せられたり。之れを熟讀玩味するに其

蒙を啓き實に百聞一見に如かすとの感を深くせり

其後大正二年二月二十三日より神戸市幼稚園に於

て神戸保育會主催の下に、女學院教師横川八十八

氏を聘しは後十回に涉り、モンテッソーリ女史の

科學的教育學に依り講演會を開催せらるゝことと

なり、大阪市に於て斯道に従事なし居るものゝ内

にて聞度ものは誰にてもこよとの寛大なる御申越

に接し、一同の喜びは非常なるものにして嚴寒の

折柄にも拘らず大阪市よりも多數出席聽講するこ

とを得たり。

次て我西區保育會にては未だ神戸市に出席せざ

りし多くの保姆の爲めに此女史の教育思想を知ら

せ度ものと思ひ、種々苦心せる折柄、市視學園田德

太郎氏には幸ひにも京都大學助教野上俊夫先生

とは御知己の由にて、同氏の御盡力により野上先

生にモンテッソーリ女史の御講演のことを願出ら

れたることなるが、先生には海外御留學前にて何

かと御多忙の中を斯道の爲めとて御繰合せの上、

御來會下さるゝこととなり、大正三年四月十五日

より前後七回に涉り御懇切に御講演下され、其都

度女史の玩具を京都大學に於て先生御監督の許に

作られたるものを每會御持參下され、御蔭を以て

一同親敷實物に依り御講演を聴き、又思ふ儘に之

れを手に觸るゝを得、益々以て確實なる知識を得

一層よく女史が教育主義並に玩具の實際を知りた

るのみならず、進んでフレーベル氏幼稚園とモン

テッソーリ女史の兒童の家との比較研究を發表せ

られ、双方の勝れたる點を列舉御説明下されたり。茲に至て初めて女史保育法の嶄新にして何となく目の醒めたるか如く感ぜられたるも、更に先生の御指導により双方の勝れたる點をよく玩味研究し以て一層斯道に奮勵努力實地に應用せんとするに至れり。

大正三年七月二十五日より五日間京都市保育會主催にて、東京女子大學附屬豊明小學校主事河野文學士を聘し、モンテッソーリ女史の講演會あり之れにも列席の榮を得一層女史の教育主義を確實明瞭に了解することを得たり。同先生は云ふまでもなく女史を深く研究せられ非常に趣味を持るゝ處より、大に女史のことに就き研鑽せられたしと申し居れたり。以上は女史を知りたる経路の概要なり、然して去る二月十七日の夜大阪市西區保育會主催の心理學講師文學士檜崎先生には、モンテッソーリ女史教育法(自由のことに就て)研究せよとの仰せられしにより以上學習せしことを陳述せ

しに、同先生は更に同女史教育法を抽象的に御説明なし下されたるに依り一層之れを深く了解することを得たり。今や同女史教育法を考ふるに當り倉橋、野上、檜崎、横川、望月、佐藤の諸先生並に京都市保育會、神戸市保育會及び大阪市西區保育會に向て謹で感謝の意を表す。

#### モンテッソーリ女史教育主義

女史は幼兒の天賦の性質の各要素を自然に發達せしめ依て以て完全なる自立的の性格を涵養するの道は、科學的研究によりて確立せられざる可らずと確信し、教育は幼兒の自發活動を基本とし其自然的發達を保護するにありとせり。從て幼兒の自發活動を妨くるは其本質を破壊するものなりとなし、幼兒の知的活動に對して無制限的自由主義をとり、他人の干渉束縛を嚴禁し幼兒の自己教育を唱導せり。又感覺練習を以て知的陶冶の基礎となせり。フレーベル氏にありては幼兒を導きて世界を知らしめんとするにあれども、モンテッソー

一 女史にありては幼兒をして自ら世界を造らしめんとするに有り。モンテッソリー女史の教育法に就き保姆と幼兒との關係に對する方面は充分に理解せられて女史の自由主義は誰も知らざるものなきに、尙他に一つの重要な方面が割合に看過せられて居るなり。そは境遇を整理善良なる境遇の内にて知らず知らずに良き感化を受けしめんと努力せし一面なり。女史は此の科學的教育學に於て境遇を考慮せざる教育は無益なりと云ひ、境遇を變化整頓することは實に科學的教育學の根本的原理なりと女史は切言せり。私我國の内外を教育的に變化整理しその内に自發活動の天地を開き、以て第一義の教育を與ふること、モンテッソリー女史の主義に一致するものならんと愚考す。

#### モンテッソリー女史の思想を加へたる我國保育の近況

現今幼稚園に於て第一に重きを措くは體育にして、我國の如き出來得る丈之れに重きを措き、可

成兒童を屋外に出し自然に接觸せしむる機會を與へ、一方兒童の自由活動を大に尊重して、身體の發達を計り毎月身體検査を施行して以て身體發達の狀態を明にせんと専心努力なし居れり。

兒童を充分觀察せんと思へば、兒童をして自由に出來得る丈け自發活動を發揮せしめざれば充分なる研究をなす能はず。されど此自由とは申までもなく放任の自由にはあらず。一定の規律秩序の下に許されたる眞の自由なり。我國の如き實行未だ日淺く充分なる効果は擧げ居らざれども、眞の自由と申事を兒童日々の行ひの上に實行致せんものと苦心せり。此實行を試みるに當りては、保姆は先以て其に對する修養を要することにて不完全なる條件ながら大略左の九ヶ條をよく服膺して以て日々兒童に就き此眞の自由の發揮をうながさんと試み居れり。

#### 我國に於て保姆の注意すべき要點。

一、兒童を見る慧眼の大切なこと及び兒童を研



究するには努力を要すること

二、児童の自由を尊重し誠意誠實を以て對するこ  
と

三、凡て児童は美的に解し行動を共にし以て奥底  
の心意に觸れ得る様注意すべきこと

四、児童の凡てを知るには先以て保母は充分なる  
素養を要すること

五、保母の人格の大に保育上に關係すること

六、フレーベル氏は子供に尋ねよモンテッソー

女史は子供より習へよと申されたる言葉は大に  
服膺すべきこと

七、児童に對しては可成言葉數を尠なして凡て補  
導の位置によること

八、児童の利用巧みなる表出又はさへたる表出に  
もよく注意調節なしやる事

九、児童の緩慢なる凡ての行動をよく補導して何  
事も自分にてなさしむべきこと

以上の條件を保母の精神となし、一致協力して

此實行をなさんと努力なし居ることとて、別段兒  
童に對しては何等申聞けたる譯でもなきこととな  
がら、保母の誠意誠實なる努力研究はやがて頑是  
なき児童の小さき心の奥底にも知らず／＼の間に貫  
徹なし得るものにや、殆んど昨今は児童に對しあ  
まり制止的の言語を用ゆる必要なく、從て保母は  
補導の位置に有て言葉尠なく、児童の狀態は以前  
に勝りて快活に且愉快氣にて一般に御し易くなれ  
り。勿論一定規律の下に服従せしむるには、先づ  
以て保母其人の人格の大にあづかりて力あること  
は論を待たず。凡て児童に對しては慈愛同情に富  
み、児童の行動萬事に就ては慧眼を以て觀察研究  
すれば必ず此目的を達し得るものなり。保母の命  
令に児童は服従せず、又思ふ如くに統御し能はざ  
るため制止的の言葉を用ゐざるの止なき場合とな  
り來るは、之れ全く保母其人の斯道に對し研究努  
力の足らざる所以なり。故に斯道に従事なし居る  
ものは出來得る限り児童と行動を共にし児童を充

分に研究したきものなり。

兒童を愉快にも又元氣よき習慣を付るも全く平素より保姆の心がけ一にして如何様にもなし得るものなり。嚴寒に候も火桶等には頓着なく何處に風が吹きすぎ居るかの態度にて飛廻り驅り廻り居る場合には、保姆も卒先して此子供の群に入り兒童に化して心行くまで面白く遊ばざれば眞の研究は出來得るものに非ず。我は先生なり子供に化して一緒に遊ぶ事何となくきまり惡き様などと思ふ様では到底奥底の心には結ばり付くものには非ず。此子供の奥底の心に結ばりが付く様に成り來れば、子供を研究することの面白味は一回と増し、衷心より此研究の趣味深く、子供と保姆の結ばりも次第次第に親密となり、凡て模範を保姆によりよき習慣は次第／＼に修養され來り、傍より觀察しても何となく親敷一家族の様の現はれ、何となく和氣藹然たる氣風に包まれ居る様の氣持せられ子供の教育には尤も必要なる優良なる感情も

此間に知らず／＼に養成されつゝあり。自由を尊重せし結果食事時間の實に靜肅になし得る様になりつゝあり。此食事の際しては凡て準備は子供自身に當番を定め實行なし得ることにて、幾分精神修養にもなる様に感ぜられ。左に其狀況を聊か申述べん。

我園に於て食事時間を利用して優良なる感情を養ふ一端とせる實際に就て

我園の子供は辨當を持參することは任意にて又辨當を食する事は別段他の園とは何等異なる處もなき事ながら、只々保姆の精神が此時間を利用して優良なる感情幾分たりとも養ひ度考へて研究なし居るものにして、昨今は最初の考へ以上に効果ある様に成り來れり。仲睦敷友達慈愛深き先生と一緒に卓を圍み會食することは子供心にも非常に嬉敷ことにて、こは獨り子供のみならず、大人にも又非常に楽しく、其れ故に此時を最初の考へ以上有益に且つ愉快に利用なし居ることなり。我

園に於て辨當を持參するに當り、第一に注意を要することは、幼稚園には極々少量の辨當を持參し後直に再度の食事をなす習慣まゝあり。故に此習慣を矯正せん爲め、此事に就きよく注意を與へ、成るべく多量に辨當を持參することを奨勵せる結果、昨今は子供自分の辨當の量多きを以て誇となし居れり。又室内は申に及ばず卓上は出來得る丈清潔にふき清め、之れには裝飾をなすことにて其裝飾は子供本位の嗜好に任せ、其裝飾の材料には生花盆栽玩具自然物其他交るゝ當番子供の考へに依て任意になすことにて、毎日ゝ其當番に當りたる子供の性格により、なかゝ面白き裝飾の出來得るなり。子供は申に及ばず大人ですら此會食時間を楽しみに待居ることにて、昨今はなかゝ裝飾も巧に種々なるものを利用して一見實に氣持よく感ぜらるゝなり。

當番の子供や保姆に依て準備出來上れば、相圖によりて屋外に遊び居る子供は會食に出る前には

先以て洗面所に於て手先を洗ひ衣服を正し、女子は髪をよくときつけ、つまり衣服を正して食堂に入ることにて、此時には不斷手に合はざる梳白なる子供も何となく氣高くして、一層人格の上りたる様に見受けらる。何分周圍の狀態が優美なる故に平素よりそわゝ敷子供も何となく心落付て何れを見ても滿面に笑をたゝへ樂んでゐる有様は實に以て優良なる感情の養はれ居ることにて成べく心靜かにゆるゝ會食することに重きを措き居れり。當番の子供の茶碗を盆にのせ各子供の前にあどけなき手に依て一々配附さる。此時間中は誠に以て靜肅にして、何と形容の出來ざる迄昨今は利用行はれ居ることにて、之れに對しては殆んど一言の注意の語を用ゐたることなく、凡て暗示的により子供自らの動的に出でたる靜肅の態度なり。かゝる場合は極く子供は愉快の氣に充ち居る内にも整然となし居るは全く幾分眞の自由の發揮せられたる結果には非らざるや。以上は現在我國にて

行ひ居る有様を其儘記し、之れに對する感想を書き列ね此等の方法につき御經驗ある師の君の御批

評なり御指導を受けんことを祈りてやます

## 『ピッ プ』の 話 (ヂッケンス) (三)

英文學に現はれたる子供(二十八) 〳〵

岡 田 み つ

兵士の一隊が家の戸口に銃を下ろしたので、食卓に就いて居た一同は驚いて立ち上がった、ジョーの妻は空手で臺所へ戻つて來て「まあ！どこへ去つてしまつたらう。…あの饅頭は！」と云ひかけて、彼女も亦目を見張つた。先刻初めに僕に聲を掛けたのは軍曹であつたのだが、今彼は一同を見渡して手錠を差出しながら

「皆さん、御妨げをして済みませんが、今此男の子に申しました通り（僕に何とも言はなかつたのに）私は御上の御用で追手に向つて居るの

で鍛冶屋さんに一寸用があるのです」。

「鍛冶屋に何の御用があるのでせう」とジョーの妻は、自分の夫に用があるといふのが癢に障つて、さう問ひ返した。軍曹は、鍛冶屋を眼で探して、ジョーに向つて、

「鍛冶屋さんかういふ譯なのだ、この手錠が工合が悪くて、よくキチンとまらないのさ。今すぐ入用なのだが、一寸調べて見て呉れませんか」と言つた。ジョーは見て、之を繕ふには新に火を起こして、かゝらなければならないから先

二時間位暇があると答へた。

「さうかな！では直ぐとやつて呉れませんか、御上の用なのだから。」と軍曹は言ひ捨て、部下の兵士を皆臺所へ入れと命じた。此問答中、僕は心配で堪らなかつたが、手錠は僕に簾める爲でないといふ事と、此騒ぎで饅頭の事も忘れられて居るといふ事が、分つて、やう／＼少し氣が落付いて來た。

「何時ごろですかな。」と軍曹が訊いた。二時半だと誰か答へたので、軍曹は考へながら、

「困る事もないな。此處で二時間取られても未だ宜い。此處から沼地までざつと幾哩ですか？」

「哩以上といふ事はありますまい？」

「丁度一哩です。」と僕の姉が答へた。

「では丁度宜い。日の暮れ方に四方から取圍む事になる。日没前といふ命令だから、宜し宜し。」

「囚人ですか。」と客の一人が訊いた。

「え、二人。沼地に入つて居るといふ事が知れて居るのですが、日が暮れなくては、彼奴等は抜け出しはしますまい。誰か見掛けた人でもありませんか。」と軍曹が言つた。僕の外皆「いゝえ」と答へた。僕の事なんぞ誰も考に入れてゐるものは無かつた。

ジョーは仕事着に着換へて、工場に入つた。一人の兵士が窓を開けると、一人が火を起こし、又一人が轡に手を出し餘のものは火の周圍に立つてジョーがトンカン／＼やるのを見物した。やがて仕事が終わつた。ジョーは着物を換へてから、兵隊さんの後に隨いて生捕りの場を見やうと、思ひ切つて言ひ出した。御客の一人が、ジョーが行くならば行かうと答へた。ジョーは行く氣があるがもし妻さへ同意ならば、ビツブも連れて行くと言つた。姉は僕に行つても可いと言ひさうもなかつたのだが、大分、好奇心が出て、この事件の成行きが知れたかつたので、次のやうに答へた。

「其子の頭が鐵砲で粉微塵に成つたツて、私に以前通にして呉れとさへ言はなければ。」

軍曹は別れを告げた。兵士は銃を持つて歩き出した。ヲブスルさんとジョーと僕とは、必ず後ろに居るやうに、而して沼地へ着いてからは物を言つてはならぬと嚴重に言ひ渡された。寒い風に吹かれながら、目的地の方へどん／＼進む途中、僕は御上には濟まないが、「ね、囚人が見付からないといゝねと」。ジョーに囁いた。ジョーは「逃げさせる事は、先無かろうよ」と囁きかへした。

彌次馬は途中一人も加はらなかつた。寒さは烈しいし、雨模様ではあるし、路も悪く、日は暮れかゝるのであるから、大概の人は戸内の爐火に當つて、今日の御祝をして居た。二三人燈火の輝いてゐる窓から顔を出したのもあつたが、外へ出て来る者はなかつた。一行は、眞直に墓場を指して進んだ。此處で一寸停つて軍曹は二三の兵を出して、墓場の内外を探索させたが、目指すものは

居なかつたので、こんどは沼地へと向つた。雲が風に連れて音を立て、降りだした。ジョーは、僕を背負ふて呉れた。

いよ／＼淋しい原へ差し掛つて來た。僕が八時間ばかり前に此處へ來て、二人囚人が居るのを見たのであるから、萬一、彼等を見付けたらば、僕が兵士達を案内して來たものと、あの囚人達は思ひはせぬだろうかと考へた。一人の囚人は、僕に向つて「貴様は虚言者ではないか」と訊いたが、彼は僕が裏切りをしたと思ふだろうか、併しいくら心配したつてもう追つ着くものではなかつた。僕自身がジョーの背中の中に居て、而してそのジョーが獵犬よろしくの風でせつせ／＼と早足で行く兵士は兵士で、前方で、間隔を廣く取つて、開展して居るのであるから。霧が未だ下りないのか、其とも風が吹き散らしたのか、入り日の赤い光りを受けて、燈臺も、絞首臺も、砲臺の堤も、河の向ひ岸までも、ドンヨリした色ながら、明瞭と見

ゑて居た。

僕は、胸をドキ／＼させながら、四人らしいものが居るかと思渡した。目に入るものも、耳に聞こえるものもない、不圖、鏝やすりのゴシ／＼といふ音が聞こえるやうな氣がしてギョッとしたが、それは羊の鈴すずりであつた。羊は食べるのを止めて、怖さうに我々一行を見て居た。牛は風や雲から頭をそ向けて怒つたやうに我々を見詰めて居た。その他には、沼地の佗たしい静寔を破るものはなかつた。

兵士は、古砲臺の方向へと歩を進めて居たが、急に立ち止まつた。風に雨に連れて一聲叫んだ音が響いて來た。もう一聲聞こえた。未だ隔りはあるがその叫聲は東の方にあつて高い長い響であつた。しかしその響は二種類混つた同時に出来るのらしかつた。軍曹は、決斷の速い人で、忽ちに考を定めて、今の叫びに答はせぬ事、進む方向を轉ずる事、驅足かきで行く事、との命を下した。そこで一

同は右に斜に道を取つた。ジョーは跳はねるやうに行くので、僕は力一杯でジョーに掴まつて居た。

ほんとに驅け足であつた。土手を下り土手を登り、門を越え、葦の間をくぐり、處嫌ひとはす走るのであつた。叫び聲の方へ近づくに従つて、一人の人の聲でない事はだん／＼分つて來た。時には音がしなくなる事もあつた。すると兵士も歩を停めた。又音がすると、兵士は更に歩を早めるのであつた。愈々それに近づくとも甲の聲が「人殺し！」と怒鳴ると乙の聲が囚人！ 逃亡者だ！ 番兵！ 逃亡した囚人は此處に居る！」と叫ぶ。さうかと思ふと聲の主は奮闘して息も出来ないで居るらしく又間を置いて再び、怒鳴り出すのであつた。兵士等も、ジョーも鹿の如くに跳んで行つた。軍曹が眞先に二人兵士が續いた。皆銃を上向けて走つた。

「此處に二人居る！」と軍曹は溝の底で組打をしながらか叫むだ。「御用だ！ 二人とも！ 獸見たやう

な！離れろく！水が撥かる、泥が飛ぶ、暴言が吐かれる、拳が揮はれるといふ騒ぎなので、新手が二三人溝に降りて、軍曹を助け、やうく二人の囚人を別々に曳摺り出した。一人は僕の知り合ひのあの囚人で、一人のは、一寸見た方であつた、二人とも、出血して、息を切らせて、呪ひあつて、跪いて居た。僕の囚人は、袖で顔の血を拭ひながら「覺えて居て下さい。私が此奴を捕へたんです。私があなたの此奴を御引渡し申すので、よく覺えてゐて下さい。」言つた。

「如何でもないではないか。貴様だつて同様の身の上だもの、そんな事を言つたつて、何の利益にもなるまいこら手錠を。」と軍曹がいつた。自分の利益になるなと思ひやしません。が私が彼奴を捕へたので、彼奴がその點を承知してゐれば、それで満足なんです。」と笑つて居た。

もう一人の囚人は、顔が青黒くて、以前の左頬の傷に加へて、今は顔中、處嫌はす擦り傷だらけに

なつて居た。物も言へぬ程息をはずませて而して人に寄り掛つてやうく立つて居た。

「御注意を願ひます。彼の男が私を殺さうとしたのですから。」と彼は言つた。僕の囚人は嘲りの調子で。

「殺さうとした？フーン、殺さうとしたのか。

己れは貴様を捕へて引渡したんだ。それが己の爲した事だ！此沼地から逃げないやうに、こゝへ引摺つて來たんだ、己の御蔭で古船へ歸へるのだ。殺すなんて。もとの處へ曳すり歸す方が萬倍の苦みを貴様にさせられるのになんで殺したりするものか」。

もう一人の方は、喘ぎく、

「私を殺……………さう……………と……………したんです……………證人になつて……………下さい。」といつた。

「そんな問答はも澤山だ。炬火をつけ」と軍曹が言つた。

一人の兵士がその用意に取掛つた。僕は、疾く



にジョーの背中から降りて、身動きもしないで居たのだが、此際、僕の囚人は、四邊を見廻はして始めて、僕を見た。僕も熟と彼を見て、手を少し動かしながら首を振つて見せた。彼が僕を見るのを待ち構へて居て、僕が此事件に無關係だとの意を知らせたい、と考へて居たのであるが、彼は僕の意味が解つたのだか如何だか、妙な顔をして見せた。而してその顔付も一寸の間であつた。

炬火が四五本點せられ、いよ／＼出立といふ際になつて、四人の兵士が、一齊に、三回發砲したすると後部の方にも、河の向岸にも、炬火が見え初めた。

「可し、進め！」と軍曹が言つた。

二人の囚人は、別々に、護衛の兵に圍まれて歩いた。僕はジョーに手を曳かれて、最後までも見る覺悟で隨つて行つた。炬火の火で、四邊が暖いので囚人等は、銃に取圍まれて跛引きながらも、嬉しがつて居るらしかつた。二人とも、足が悪いの

で早く歩く事が出來ず、疲勞も烈しかつたので、途中二三回止むを得ず休息させられた。

一時間ばかり歩いて、やう／＼粗造の小屋へ着いた。番兵が一人居て誰何した。軍曹が答へをしたので、一同小屋へ入つた。中に、三四名の兵士がゴロ／＼して居たが、我々を見ても珍らしくもないといふ風情で直く倒れて寢てしまつた。軍曹が報告らしいものを帳簿に書き付けて、それから、僕の知らぬ方の囚人が、番兵に伴はれて、先へ、古船へ連れ戻されていつた。

僕の囚人は、あの時以來僕を見なかつた。小屋の中に居る間、彼は爐火に暖まりながら、物思ひに耽つて居る様であつたが、急に軍曹に對つて、「逃亡した事について、申上げたい事があります。私の御蔭で疑を受ける人があるといけませんから」と言つた。

軍曹は腕組をしながら冷かに彼を見て、「言ひたい事があるなら言つても差支ないが、

此處で言ふにも當るまい。事が落着するまでには、言ふ機會も聞く機會も澤山あるのは分つて居るだらう。

「分つて居りますが、其とは別の事なのです。人は餓死するなんて事は出来ません、……兎に角私にや出来ません。それで私は向ふの村で食物を少し貰つたんです」。

「盗んだんだな」と軍曹が言つた。

「何處から取つたか、申し上げます。鍛冶屋の家からです」。

「さうか」と軍曹はジョーを見た。

「どうだい、ビツブ」とジョーは僕を見た。

「寄せ集めものでした……その食物ツていふのは、それに飲物が少量と饅頭と」。

「君の宅で饅頭なんか紛失しましたかね」と軍曹が親しげに問ふた。

「丁度貴君が宅へ入つて御出なすつた時、妻が紛失したと言つて居る處でした。ね、ビツブ」。

囚人は、不興味にジョーを見、而して、少しも僕を見ないで、あなたが鍛冶屋ですか。あなたの宅のバイを食べて済みません」と言つた。

「一向構ひませんとも……私の品物なら……」と一寸妻の事を考へてさう言つて置いて「あなたがどんな悪い事をしたのか知らないが、まさか、餓死させたくはないから……御氣の毒な……さうだねビツブ」。

囚人の咽喉がまたカチツと鳴つたと思つたら、彼は脊を向けてしまつた。小舟が戻つて來て番兵の支度も出來たので、皆で囚人に隨いて渡し場へ行つて、彼が小舟へ乗り込むのを見た。船頭等も同じく囚人共であつたが、この連れ戻される男を見て、驚くものも喜ぶものも、残念がるものも、物言ふものも無かつた。誰かい犬にでもいふやうに「ソレ!」と聲を掛けると、舟が動き出した古船が炬火の光りで、黒く彼方に見えてゐた。小舟はその傍へ着くと、囚人は船側から中へと入つた。

炬火は水に落されて「シュッ!」と音を立てて消えた。

歸途に僕は眠くなつたので、ジョーは宅まで背負つて來て呉れた。うちの臺所へ來てから、急に目が覺め、急に立たされ、急に暖かで明るく賑かなので僕は酒酔のやうに蹣跚いた。肩の邊をひどく打たれて、姉が大聲に「こんな子ッてどこにあらうと」。怒鳴つたのでハッ!と我に歸つた時は、ジョーが一坐の人に四人が食物を盗んだと白狀をした話をし、皆が、何處から食物室へ入つたらうと評定をしてゐるところであつた。

僕は思ひも掛けず小盗みをした報を免れたが、さりとて、自分から正直に白狀しやうとも思はなかつた。姉さんに濟まないなど、は一向思はなかつたが、ジョーには申譯なく心苦しく思つた。ジョーが、鑪がないと探して居た時などは、殊に氣になつて、此人には打明けなくては悪いなと考へた。併し、やはり黙つて居た。もしジョーが僕を

實際以上の悪い子供だと思ふといやだといふ念があつたので。ジョーの信用を失してしまへばこれから以後もう朋友でなくなつてしまふ彼と無言で爐火の前で對座する事になる、其が恐ろしくて白狀し得なかつた。もしも、ジョーがあゝの事を知れば、僕はジョーが火の傍で鬚をひねつて居る度には心の中では、僕の所行を考へて居るな、と思はずには居られまいし、又前日の食物の残りが、食卓に出ると、ジョーが、心の中で、僕が戸棚へ盗みに入つたかもしれぬと思ふだらうと、氣を廻はして心配しないでは居られまいし。まあ一口に云へば僕は正しいと知つて居る事も實行が出来ず、悪いと知つて居る事でも爲せず居られない卑怯者であつたのである。(續)

# 麻疹の話

醫學士 石塚 保吉

此春から非常に麻疹がはやつて居ります。東京全市に亘て近年希な流行でした。中には随分ひどいのもありました。麻疹の手當ては誰れも知て居る事がありますが、麻疹だからなど、油斷してうつちやつておくのはよろしくありません。無事にすむ時はよろしいが、わるくすると非常に恐ろしい事になります。肺炎になつたりすると甚だ危険なのです。殊に滿一年にもならない幼児は大抵餘病を起して中には、それが爲めに斃れるものもありますから、よく注意しなければなりません。

麻疹のはじめの徴候は、最初熱が出て、眼に血膜炎を起して涙が出る、目脂が出る、鼻がつまるその次に咳が出て、口の中は赤く充血して、顎の粘膜に乳かすのやうな斑點がつきます、此斑點をコリツプ斑といふのですが、之が麻疹の特徵で、

之と熱があれば麻疹と斷定して間違ひはありません。そして上顎に赤いポツ／＼が出來ます。麻疹とわかつたらなるべく寒氣にあてないやうに氣をつけなければなりません。前に述べた徴候があらはれてから二三日立つ中に發疹が顔から首のあたりから全身に廣がつて來ます。その時も早く氣がついて、暖かな部屋に入れて着物も十分に着せてよく手あてをしておけば、發疹も早く、快復も早いのですが、眞違へて冷したり、知らないでかまはず寒い中をつれ歩いたりすると、麻疹が内攻して、氣管支加多留、肺炎、中耳炎、腸加多留などの餘病を發します。殊に肺炎が多いやうです、そして容易になほりません、斃れる人は多く之れで斃れるのです。麻疹は暖めるといふ事が最大事なのですが、着物を暖かく着せただけではいけません。

ん。暖かい部屋に入れて寒さにあはせないやうに注意する事が肝要です。かういふ風に注意をして居ると経過は必ずよろしい。普通、餘病さへ出なければ、経過は短かいもので發疹が了つてから三四日目位からだん／＼ひいて、熱も下つて來るものです。無難にゆけばそのまゝ全快してしまひます。三日経つても熱がひかない不相變熱が高いといふやうな時は餘病の起つたしるしであるから、大に警戒を加へねばなりません。

### 食事の注意

麻疹の餘病として重い腸加多留を起す事がありますがさういふ場合には、牛乳、おも湯、葛湯の如き流動物をとらせて其以外のものを與へない方がよろしい。食物で失敗つて大に困る事があります。

### 傳染の豫防

一軒の家に麻疹がは入ると大概子供全體にひろがるやうです。氣がついて隔離する時は遅いかも

しませんが、一年未滿の幼兒は重症になりやすいから、なるべく之れを遠ざけるやうにするがよろしい。

### 花見時の衛生

これからは花見時でだん／＼氣候が暖かになつて來ますから、寒い時とは病氣の種類がかはつて來ます。今までは呼吸器病が主であつたのが、これから追々腸胃の病氣にかはつて來るのです。恰度草木が芽を出すやうに微菌が勢力を振ふのですから、よほど食物に氣をつけなければなりません。殊に花見時人込みの中で粗雑な飲食物を取つて胃腸をこはす例は少くありません。雑沓の場所に出張して居る店は責任がないから、賣りさへすればよいと云ふ主義で粗惡なものや亂暴なものをおいております。

花見は楽しいものが主であるのに病氣になつては引きあひませんから、食物はなるべく自宅から持參するといふやうにしたならよからうと思ひます

もし飲食店に入るならばなるべく雑沓の店を避けて信用のある店にするがよいと思ひます。種類もなるべく熟煮してあるものを選ぶがよろしい。餌氣のものはよろしくありません。此の時節は殊に微菌が繁殖して居るのですから、少しでも悪いものを食べると直に腸胃を痛めるのです。花見もなるべく人の雑沓しない郊外に於てするのが望ましい事です。

### 沙 干 狩

沙干狩など海の中へはいつて行くのであるから却て遊びにはよいかと思ひます。寒かつたり風があつてはいけません、いゝ天氣などはよい遊びだらうと思ひます。埃も立たず、いゝ空氣を吸ふ事も出来て健康の爲めによほどよいと思はれます。

## ○本會夏期講習會

フレーベル會夏期講習會は八月、全國幼稚園關係者大會に引続き、東京女子高等師範學校内に於て開催の豫定であります。尙詳細は本誌次號に於て發表いたします。大會出席と共に多數の來會を希望します。

## ○三田谷氏著智力検査法

ドクトル三田谷啓氏は兒童智力検査の普及をはかる爲其の方法を詳述せる『智力検査法』及び之れに使用すべき『智力検査圖』を著はされました。同圖は佛蘭西の心理學者ビネー、シモンの方法に據り我國兒童に適切なる様改訂せられたるもので、三歳より十二歳に至る兒童に適用する様に出来て居りますから、幼稚園等に於て此の研究をする場合にも至極く便利であります。(東京本郷區西片町十番地兒童書院發行、定價『智力検査法』金四十錢『智力検査圖』金六拾錢)

雜 錄

○全國幼稚園關係者大會

全國幼稚園關係者大會は左の如き規定のもとに開催せらるゝ筈であります。本會はさきに此の規定書を全國幼稚園に送つて御賛同を求めました處多數の熱心なる御賛同を得、爾後著々として計畫を進めて居ります。出席御希望の方々は必ず五月末日までに御通告を願います。

全國幼稚園關係者大會規定

第一條 本會ハ全國幼稚園關係者ノ會合ヲ催シ幼稚園教育ノ改良上進ヲ圖ルヲ目的トス

第二條 本會ハ全國幼稚園關係者大會ト稱シフレ

ール會之レヲ主催シ大正四年八月三日、

四日、五日ノ三日間東京ニ於テ之レヲ開ク

備考 會場ハ東京女子高等師範學校講堂

ヲ借用スル計畫ナリ

第三條 本會ハ全國ノ幼稚園教育ニ關係アルモノヲ以テ組織ス

第四條 本會ニ於テ舉行スベキ事項ハ議事、講演、實驗談、研究報告等トス

第五條 本會々議ノ議長ハフレール會長之レニ當ル

但會長事故アルトキハ會長ハ其ノ代理者ヲ指名ス

第六條 本會ノ議事ハ普通議事法ニ依ル

第七條 本會ノ趣旨ヲ賛同シ大會ニ出席スル者ハ會費トトシテ一名金五拾錢ヲ出金スヘシ

第八條 大會出席希望者ハ大正四年五月末日マデニ東京女子高等師範學校附屬幼稚園内全國幼稚園關係者大會準備委員宛其ノ住所、職、

氏名ヲ報告スルモノトス

第九條 本會施行細則ハ別ニ之レヲ定ムルモノト

ス

尙ほフレーベル會長中川謙二郎氏より左の通り同  
大會の顧問、商議員、特別委員ヲ依頼せられました

顧問

(イロハ順)

文部省普通學務局長 田所 美 治

男爵 辻 新 次

奈良女子高等師範學校長 野 尻 精 一

文部次官 福原 鐸 二郎

商議員

(イロハ順)

東京市保育研究會長 濱 幸 二 郎

神戸頤榮幼稚園長 エー、エル、ハウ

大坂市保育會副會長 大 村 芳 樹

日本女子大學校長 成 瀬 仁 藏

學習院女學部長 松 本 源 太 郎

文部省督學官 横 山 榮 次

文部省督學官 小 泉 又 一

神戸市保育會長 小 磯 吉 人

京都市保育會副會長 小 豆 澤 英 男

高輪幼稚園長 森 村 市 左 衛 門

東京府理事官 元 田 敏 夫

東京市教育課長 守 屋 恒 二 郎

奈良女子高等師範學校  
附屬幼稚園主事 森 川 正 雄

東京府女子師範學校長 鈴 木 光 愛

特別委員 (イロハ順)

東京府女子師範學校教諭 飯 沼 し づ

東京市深川尋常小學校長 稻 垣 知 剛

東京女子高等師範學校教諭 井 村 く に

東京女子高等師範學校保姆 池 田 と よ

右 同 芳 賀 晴

右 同 坂 内 ミ ッ

私立帝國幼稚園長 西 山 哲 治

東京市朝海幼稚園保姆 千 葉 ひ で

東京女子高等師範學校訓導 和 田 實

東京市坂本幼稚園保姆 和 田 く ら

私立日本女子大學校  
附屬小學校主事 河 野 清 九

私立日本女子大學校  
附屬豐明幼稚園主事 甲 賀 ふ じ

私立一ツ橋幼稚園長 多 田 房 之 輔



私立共立幼稚園長 田中ふさ

東京市麴町小學校長 土川五郎

私立開發幼稚園長 長坂賴幸

東京市坂本小學校長 中島行徳

學習院助教授 宇佐美敬

學習院教授 野口ゆか

私立早蕨幼稚園長 久留島武彦

東京女子高等師範學校講師 倉橋惣三

東京市四谷幼稚園長 山下つや

東京女子高等師範學校附屬幼稚園主事 安井哲

東京市明治幼稚園保母 福田ふく

私立神田幼稚園長 近藤茂

東京市誠之幼稚園保母 小向喜美

東京女子高等師範學校保母 雨森鋤

右 同 坂井ふで

私立東洋幼稚園長 岸邊福雄

東京市常盤小學校長 水野浩

東京府女子師範學校 日田權一

附屬幼稚園主事

東京市誠之小學校長 杉浦恂太郎

## ○フレーベル紀念會

四月二十一日の誕生日を以てするフレーベル紀念會は廣告の通り午後三時半より東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて催し下田教授の「フレーベル所感」と題する有益にして趣味多きお話がある筈であります。平日ですから、幼稚園を終つてから御來會の御都合のよい様に午後三時半からとしました。おそくも五時には閉會の積り、昨年も極めて盛會でありましたが、本年も多數御來會を希望します。

## ○東京市保育研究會講習會

東京市保育研究會は其の第一回講習會を麴町小學校に於て開催去月十八日を以て倉橋講師の「兒童心理」(十時間)、赤津講師の「黑板畫實習」(十時間)を終了しました。講習員百數十名盛會でありました。

## ○教育に應用すべき童話の範圍を擴張すべし

桑田文學士

從來に於ては、童話は其の他の神話とか傳説とかの如く、古代文明民族のそれが主となつて居た。或はそれ等から發展した文學的童話が主として學者の研究を促し、且其の材料は教育に應用せられて居た。併し今日に於ては、未開人の研究が盛にして、其の童話の如き非常に澤山の材料がある。而も是等の童話はクラシカルな童話の源泉にして、更に幼稚な精神作用から出來て居る形式である。従つて幼稚な兒童に取りては却て適合し、興味ある材料である。

元來兒童の精神は未開人のそれと非常によく似て居る。童話に關係した方向から見ても、想像の盛なこと、殊に擬人想像の著しいこと、聯合的結合から漸次統覺的のそれに進むこと、感情的なること、更に進んでは、無道德的（道德意識發生以前の情態にして、道德に對する不道德の意味でない）から漸次道德意識に向ひ、科學的思考法を缺如し、呪の現象を信じ若くは喜ぶこと等の精神的性質は、彼我共通の現象である。此の點に於て原始時代の童話の研究が、一般の童話研究殊に教育家に閑却せられて居るは非常に遺憾である。

併しながら、未開人の童話を兒童教育に應用するに當りて、注意を要することがある。それは未開人の童話に現れたる内容が、全然現今の兒童の精神に適合するとは云はれない。未開人は已に

成人である、社會的色慾的宗教的生活に於て遙に進んで居る。自分で生活し、且色慾的慾望を満足することは、周圍の保護に依存し、性的關係に觸れない兒童とは大に異つて居る。且未開人は全體が未開の空氣の内にあるのに反して、兒童は外界の文明の空氣の中に生れ、育つのである。この點からして、兩者の精神生活の間に差別を生じて來る。従つて、未開人の童話そのまゝを今日の兒童に適用し難いことがある。例へば性的關係、文化現象由來の説明、靈魂表象の意匠等の如き、兒童にとりては、不可解であるか、或は興味を起さないかも知れぬ。かういふ様な兒童の精神生活に發達しない意匠は、不向きであると共に、原始文明特有の材料も除かれねばならぬ。多くの原始文明は其の痕跡を文明時代迄殘して居るものであるが、さなく單に原始時代にのみあつた事物とかいふものは、特殊の知識を俟つて初めて分明するので、兒童には不可解である。是等の事柄は取り除かれるか、又は文明の產物と取り換へられねばならぬ。かくの如き注意を拂へば、原始的童話は單に學術上の興味がある許りでなく、實際の教育上の材料を豊富にするであらう。（『心理研究』第四十號より）

ヒュウロウ  
夫人の

## フレーベル追懷錄

S K 生 譯

### 四、ミツデンドルフ

私は非常な興味を以てミツデンドルフの來訪を待ち受けました、フレーベルの話に依つて彼に就ては既に知つて居りましたし又彼の生涯の道連れとなつて三十年の上も苦勞を共にした眞實の親友を彼が有して居るといふことも知つて居ります。

「彼は子供のやうな男です、而して心から私を理解して呉れてゐます」とフレーベルは言ひました。

二人はルツツオーの自由兵團の軍人であつたのであります、而して一八一三年の戰役の始つた頃に互ひに昵近ちかづきとなりました、而して生涯續く、生涯續くが故に更にそれ以上に續くべき稀有の友誼を結んだのであります。

九月の或日の午後フレーベルは私の家に來て彼

の友を紹介して「これがミツデンドルフでございます」と言ひました。質樸な飾る所のない、而かも同感を催させる彼の人柄を一たび見たものは決してそれを忘れることは出来ません。互ひに眼を見換みかはし手を握り合つたゞけで私達は友達となつてゐました。

フレーベルと同じくミツデンドルフは近頃ではあまり見受けぬ種類の人で近世に於て過去の典型ともなるべく現代にはふさはぬ人でありました、このタイプは欺罔を容るゝ能はざるより狡猾を知らず、無邪氣な子供らしさと心よさを持つ正直な僞らぬしつかりした獨逸人を現して居ります、而して現今の人々の世渡り上手や空虚な批評的唯智

主義とは著しい相異を示して居るのであります。

高尚な世界意識に於ける美しき單一性、過ぎ去つた人々の遺傳、これらのものがミツデンドルフをして他と異ならしめたのであります。自然の大きないつくしみは彼に殆んど女のやうな性質を與へました。愛を以てすべての反對に打勝つこと、

不一致を調和させること、欠點が救はれ得ざりし時にその欠點を覆ひ隠すこと、暗き日に於いても少しでも良き方面を見んとすること、すべてを捧げて全能の神を信すること——これらすべてが子供らしい欣快と結び付いて彼に懷靈者の理想的な性質を與へました。斯る性質は過去の人々若しくは時偶村夫子とききたまに見ることが出来るのみであります。以上に述べたやうな譯でミツデンドルフはその地上巡禮の間、實にフレーベルの良き天使であつたのであります。彼は常に慰撫し平等にしやうと試みました、而して大家族に於て必要が起る毎に調停者となりました。

以上のやうな昔者の特性があつたにも拘らずミツデンドルフは尙又革新を望んで歇まない連中の一人でありました、如何なる青年も更に熱心にこの頼しき誘因を追及し、更に理想的なる振起を以てこの誘因に打込むといふことは到底企て及ばないといふ位に充分、益々高き進展を欲する近代的衝動を穿貫してゐる人々の一人でありました。

フレーベルの「生の革新」といふ主張は充分にミツデンドルフの心を捉へてしまひました。而してその頃この振起の後間もなく續いて來た失敗も彼からその正しい希望を奪ふことが出来ませんでした、即たとへ彼等が始の内は荒野を歩き廻らねばならなくとも、更によき時代のたのもしき世界と氣高き人類とは必ず到着せられねばならぬといふのであります、彼の望は子供にかゝつて居るのであります、——未來に於てすべての野蠻、粗暴、惡徳、怯懦と戰つて之に打勝ち、道徳によつて自由を得、更に美しき日の曉を見ることの出来るべき真

實を以て立派に教育せられた子供に彼はその望をかけてゐるのであります。これは彼には論争し難き確實でありました、彼はその確實性を疑ふ者を彼の感激的な語によつて得心させることが出来ました。彼は彼の靈に寫つた人間性の莊嚴を疑ふことが出来ませんでした。

この清新な若々しさを失はぬ老人が生きてゐて獨逸の今日の成功を見たならば甚麼に嬉ぶことでありませう。

けれども彼は世に在る内幸福でありました、何故ならば彼は美の輝きに於てすべてのものを見る事が出来たからであります——偉大な完全な物の内にも微小なもの、隠れたるもの、内にも、すべての方面に於て神の尊き創造と指導とを看取することが出来たからであります。彼の自然との交通はフレーベルと同じく常に神の欽慕でありました、而して彼の心に詩的氣分を起させました、この詩的氣分は散歩の途上などで屢々詩句の形を取

るのであります。私はよく散歩の翌朝これらの詩句を私の机の上に見出すのであります、是等の氣取らない小詩は形式に於て傑作でなかつたにせよ純なる詩的情操が詠せられてゐたので讀者を熱せしめリーベンスタインの私達の仲間の内に起つた小さな事件や印象に光彩を放たしめました。四方から彼の上に名譽や愛や信賴が溢るゝ許りに注いで來る此の小さい仲間の内で彼は常に健康で且つ幸福でありました。

フレーベルも亦ミッテンドルフの居たために常に幸福であり快活でありました。彼はすべての心の感じ、彼等の生活の小事件に關するすべての考を彼と交換しました。何物もこの親しい友誼を破ることは出来ませんでした、時偶起る避け難い不快もフレーベルの思想の充分ならぬ理解及びそれのミッテンドルフに及ぼす結果もこの友誼を破ることは出来ませんでした。フレーベルはよく「ミッテンドルフは彼の感情を以てすべてのものを捉

へる、イデアをさへも彼は感情を以て捉へるのである、彼はすべてを捧げる、若し彼がゐなかつたならば私達は今私達が達し得た所まで達することは不可能であつたであらう」と言ひました。これはフレーベルの口から出たよく事理を辨へた言葉であります、さうです、若しミツデンドルフがゐなかつたならばフレーベルは多分彼の生涯の失墜と落膽から害はれずに逃れ出て来ることは出来なかつたであらう。

この靈魂の契合に於てミツデンドルフは男性的の力の傍に立つて慰め和らげ契合が強暴のために破られないやうに又變ることのないやうにと努める女性的半分でありました。物事のよき判斷、人や事情の眞率な批評は屢々この仁慈な善良な感情の卓越に依つて爲された場合が多いのでありますミツデンドルフは他人の惡を理解することが出来ませんでした、彼は何時も酌量すべき事情を持ち出すからであります。フレーベルの學生を判斷

する場合にさへも彼とミツデンドルフの二人は彼等の望多き飾り立てた仁慈のために欺かれることが尠くありませんでした。

けれどもリーベンスタイン若しくはマリエンタルの學校の生徒は皆ミツデンドルフの訪問が常に無邪氣な詩的な平靜（或人は心の神聖な狀態といふ）を齎したといふこと及び彼が巧みに彼等を快活ならしめたり向上せしめたりしたといふことを決して忘れるはしませんでした。習慣の散歩をしてゐる時なぞ落日を望んでミツデンドルフは小さな唱歌帳を取り出し斜陽に對して讚美歌を歌唱するところがよくありました、這麼時には若い娘達は共に合唱したり又は尠くとも疊句を唱ふのでありました、植物や花が花環や花冠に織り込まれた時には彼はその讚嘆と驚異を利用して生徒に創造の叡智に興味を懷かしめてその法則を人間生活に適用せしめやうとしました。

事物の符號的性質は常にミツデンドルフに取つ

ては魅力がありました、而して彼の説明と比較は常に感官的でありました。彼に女性の心に對する偉大なる感化力を與へ又彼をしてフレーベルの天才の最もよき解釋者たらしめたものは彼の深き、男としては稀な感覺力であります。フレーベルの創造したものはミッテンドルフに攝取され深き歸依を以て研究され而して概ね親易き形となつて戻されるのであります。而して彼は忍耐力と撓まぬ勇氣と確固たる忠誠とを以て極くの最初から僅かに理解の希望を見出し得る偏狹者の群れ及び嘗つてフレーベルの方法の理論と實際應用とを學ばんと志したこともない一部の教師や教育學の大家の侮蔑的な又は全然非難的な批評に對してフレーベルの思想を辯護しました。若し誰でもがすべての人々の内に隠されてゐる特殊な性質の極致を如何にして齎すべきかといふことを理解したとするとミッテンドルフはフレーベルの特殊な性質の極致を如何にして明るみに引出すべきかといふこと及

び人間の弱點を大目に見てそれらを天才から別にして置くといふことを知つてゐます。この天才のすべての發言を彼は神託として受けたのであります。而して若しも彼に充分に分らない事があると彼は「其處には何か意味がなくてはならぬ譯だ、考へてみやう、それは他の部分と適合するであらう」などといふのが常でありました。

或る夕、ミッテンドルフと散歩を共にしてゐた時私は彼に言ひました。「フレーベルの教義と教育とによつて人々は可見的創造物を精神的なるものゝ象徴として理解するやうにさせられ、私達が天啓と名ける經驗によつてその確證を見出すであります、眞理といふものは科學が自然の事物即物質世界から掘り出した眞理であつても又は啓發せられた心が天才の直接の靈感から授かる眞理であつてもその眞理たることに於て常に同一であります、たゞ私達はそれらの眞理を心の中なる元物——思想と比較して見るために事物の言語（即事

物の元の性質を理解し得るやうになることが必要であります。然る時に私達は顯はれてゐる矛盾を説明することが出來ます。この解説は第一の理論の中に存在する二元論を革除します、この第一の理論といふのはたゞ不完全なもの、すべての實在の關係に關してのみ妥當で眞理殊に絶對といふやうなものに對しては効力がないものであります。最初に於て人々の心をして事物の結合及び創作的而して遂に効果的な渾一を見るを得しめる所の教育は實際生活の事實及びその不完全にして變轉定りなき現象に於ける反對、矛盾によつて作り出された知覺の二様式を革除するに功がなければなりません、事物そのものにより並びに事物そのものを使用して施す所のこの教育、具象物を用ふるといふことは物質と精神、眞實と理想、宇宙と神、是等二者の間に橋を作る援助をなします、斯くして又子供の心に宗教的宇宙觀の根柢が置かれるであります。子供の心に先づ尠くも神によつて定

められた目的即調和及び相異の解釋を明瞭にすることを差し置いて殊更に自然と精神との顯然たる相異又は反對に留意するを常とするといふことは争はれぬことであります。子供の眼は常に先づ結合の要點たる類似、事物の全體の結合を捉へます而して然る後に始めて相異と反對とを認めるのであります。

現今に於ては人々は精神を重んじて自然を忘れ抽象を重んじて物體を忘れたやうであります、言葉は事物から離されてその役目を掌り而して概ねたゞ單なる空虚な言葉としてのみ理解されないやうになりました。フレーベルの方法と教義はこの過程と相反して居り而して先づその根本並びに原由として事實を外的、內的の經驗に結び付けるものであります。斯くしてこそ神の心なる眞實の精神が再び自然及び人心に於て同一物として認められ得るのであります。教育に關するフレーベルの理想は自然(神聖な自然)に對する人の關係を人々



の全き自覺にまで齎さうと努めます、而してそれに依つて基督教の教ふる如く神(精神に於ける)及びすべて神聖なるものに對する人の關係が於高く<sup>より高く</sup>於明らかな認識にまで引き上げられなければならぬのであります。真理の一面は他の一面を論證し説明するのであります。

自然及び事物に對する現代の支配的傾向と實際生活の興味とは同一の目的に従ふべく強ひられるであります。錯誤と醜劣な墮落とを持つた反對の半面があるにも拘らずこの傾向は神によつて定められた進展の過程に向つて一の必要であります而してそれは廻り遠い道を通るとはいへ人間性の深い智識を通じて遂にその目的に到達し精神物質兩界の間に横はる大なる灣に橋を架するのであります。進歩と改革に對する目下の要永と正しき高尚な努力とにフレーベルの理想が協和して神的思想なるものが現れるのであります。この教育上の新理想を正しく實現するといふことが何物よりも

生硬な物質主義を征服し理想主義のために途を拓いて實際的實在と調和させ而して眞實な理想通りな生活を再び調へることに與るのであります。」

ミッデンドルフは輝く眼を以て私を見て而して云ひました。「あなたは心から出て私に話をして下さいました、私も亦理想といふものをさういふやうに考へてゐました、さて私は今まで誰にも話さなかつた私の考をあなたにお話しませう、この自然の渾一の思想が研究され教育の適用のために用意されるやうになつたのは全くこの真理の中に生きこの真理を味つたことのある人に依つたからであります、フレーベルは自然と堅く默契して生活して來ました、普通一般の人々と同じく彼も亦人間的弱點や缺點を持つてゐましたが夫等はこの結合を妨げることは出來ませんでした、たゞ神の特別な思召によつてのみこの事は起り得るのであります、而して人間界に惡や悲哀が存在すればこそ其處に言ひ現し難き慰めが横つて居るのであります

す。あなたの仰有ることは事實であります、一の眞理は他の眞理を常に論證するものであります、既認の眞理は新しき眞理が見出される毎にいや明かにいや深く理解されるのであります。現今甚しく誤解誤傳されてゐる基督教の精神は子供に於て新生命にまで喚び覺まされるのでありませう、而してフレーベルの教育理想が實際に適用された時にそれは新しき於貴き光よりたふととなつて現はれるでありませう。これは私の深く信じて疑はぬ所であります」

私はこれに應じて言ひました、「けれども如何にして我々は子供の遊戲に依つてこの理解し易きものと理解し難きものとの間に結合を行ふことが出来ませうか？ 如何なる方法で深遠な理想を斯る無意味な形に結び付けるのでせう、私にはそれが實は分らないのです。今の世間の様子では若し私達かそのやうな意見を聲高に話したら私達を嘲り笑ふでせう。それでも尙私は或る事に打込んだら

その事をいゝ加減にして置くことは出来ない性質ですから單にその主題の實際的の外面のみを以て満足してゐることは出来ないであります」

ミツデンドルフは答へました、「けれどもそれは斯うするより他は仕方がないでありませう、つまり充分謙遜な態度で少さいものを養ひ育てるので、私達が死んでズツト後に未來に於て繁茂し榮える所の種子を撒くといふことです、けれどもその進展を念としてゐることは決して些事ではありません、否寧ろすべての時代の人々に取つても重大な最も重要なことであります。」

私は答へました、「それはよく分りました、けれどもすべての人は自ら延び自らの生活をしやうとして居ります、而して大きくとも小さくとも自分の力に適つただけの仕事を何かこの世に残して行きたいと望んで居ります、私の考ふる所では最高の満足は自分の心を寫すべき何物にも頼らざる美しき仕事によつて與へられます。常に拒み難き力

を以て新しく起つて來て聽聞を要求するが故に靜止させて置くことの出来ない衝動——表現の内的衝動によつて驅らるゝ何物かを心の中に持つ者は誰でも等しくこの言葉を發するのがきまりです。

それは神様の思召です。而して而して若しも彼の姓名を附することなくしてこの仕事のために願望し努力するものがあつたならば我々はその動機が人格的虚榮より以上に高尚なものであるといふことを信ずるものであります、それなのに人といふものは他の理想を象どり表すために己の理想、己の心の子供を犠牲にしなければならぬのでありませうか、而かも又他の一面に於て私は大きく人間社會のために働き、人間社會のために現代及び次代の若き人々の中から善良な人、勇敢な市民、偉大な天才を教育する方が遙かに有益であると思ふのであります。

若しも創造の神火が點せられ今まで養はれたよりももつと完全に現代及び未來の人々の内に

養はれたならば一の心の仕事を捧げてしまふ代りに、もつと偉大なもつと種類の異つた幾千の仕事が用意されるであリませう、すべこの事は否むべからざる事實であります、けれどもそれは若干の程度に於て我々自身の成長進歩の犠牲を要求します、乃で決心が容易でなくなつて來るのです」

この時丁度フレーベルが二人の會話に口を入れました、而してそれまで長い間何を話してゐたのかと尋ねました、私達は彼に今までの話の終の方を話しました、すると彼は私の方に向き直つて語りました、「斯る問題に於ては内的必然性が決定します、人類全體に關する眞理を實際に認めたものは自分で望んでも望まなくてもその眞理を事實の上に現しそれに従はなければなりません、若しもあなたがこの内的必然性を見出したならばそれはあなたを強ひるでせう、凡そ世の中のことは犠牲を拂はずに得られることはありません、而して人は一般的善事を爲し得る時には個性（フレーベル

はそれを特性と呼んでゐます）は、たとへそれが甚  
麼に立派に完成せられて居るものでありましても  
その主張を撤回しなければなりません、吾國が危  
殆に瀕してゐるといふやうな場合には智識あるも  
の技量あるものがそれによつて如何に多く失はれ  
やうとも凡そ武器を手にし得るものはすべて戰場  
に趨らねばなりません、而して人類のために働く  
といふことは個人的な如何なる事を行ふよりも高  
尚なことであります」

私は言ひました、「それは仰有る通りです、全體  
は部分より勿論勝つて居ります。私は誰にも勝し  
てあらゆる方面に於て人類に創造力を振興させ更  
に思想を實行にまで持ち來す理想といふものを尊  
重するのであります。けれどもそれは世界をして  
俗物及び人形から免れしめることが出来ませうか  
私はそれを信ずることが出来ません」

フレーベルは答へて言ひました、「何のやうなこ  
とがあらうともそんなことがあつてはなりません

舟といふものは脚荷を要するではありませんか、  
若しも私達が（あなたの仰有る）俗物を有さないと  
するとこの世界が何うして立行くでせうか？ 誰  
が毎日の注意や雑務に従ふでありますか？ す  
べての仕事は特別な力を必要とします。自然はす  
べての必要な力を供給してくれます、而して人類  
教育はこれまでのやうに最も多く最も善きものを  
拒むことなくそれその種類の種類に従つて是等の力を  
發達させて行かなければなりません。而してこれ  
によつて人々は己の尊嚴を自覺せずして駄獸の如  
くに働くことを避けるべきであります。薊の薹か  
ら薔薇を作らうと試みない教育はすべての技量や  
性向を賢く利用し各人をその適當な場所へ連れて  
行き其處からもう他へ行かうと望まないやうにし  
ます。私の教育方法は正しく適用されると確かに  
この目標に到達することが出来ます——換言すれ  
ば漸次に一步步に適用されれば上に述べた結果  
に達することが出来るのであります。若し私達が

自然を強ひたり又はそれに特有な傾向と反對な方向にそれを追ひやらなかつたならば、若し私達が丁度賢い園丁が植物を扱ふやうに、その概則を認めてゐて各の特別な力に自由な發達とその要求するすべての保持と注意とを與へたならば人間の力はその花を持つのに如何に助けらるゝか分りません。けれども草木が自分の生活力によつて成長して行くやうに人間の力もそれ自身の練習と努力とによつて偉いものとなつて行かなければならないのであります。外部からの刺戟や支持は些少<sup>すこ</sup>でもあつてはなりまん、自然界の諸物はその分に止つてゐて其處で己の宿命を充して行きます、草は木になることも蟲や鳥になることもありませんが、同じやうな調和が人間界に持ち來され得るのであります、而して各人はそれぞれ自分の職業に従つて働き而して生きて行くのであります。人間界に於ける自覺を以て自然界の無意識的調和に到達することが神が人々のために定め給へる目標<sup>ゴール</sup>であり

ます。戦争、紛擾、争鬭、軋轢、苦惱、錯誤、罪惡はすべてこの目的に達すべき手段として存在するのであります、自然界には多くの争ひがあります、反對がなければ居中調停が有る筈がなく、不秩序の解決がなければ調和がある筈がなく、勞作がなく妨害物を超える努力がなければ完成がある筈がありません。

是等はすべて耶蘇が我達に教へたのでありますけれども教授及び洞察だけはそれに到達しませんそれは耶蘇がそれを行うたと同じやうに行はれねばなりません。私達は子供が眞實基督教徒とならうと望むならばこれを實際的に快活に教育しなければなりません」

「而して斯る教育に於て大なる分け前が婦人に屬してゐるのであります、その事に就ては私達はすべて同意見であります」とミツデドルフが言ひました「婦人はその教育的天職を僧職的職務の如く重んじなければなりません」

私達は既に私の住居の人口にまで来て了ひました、乃で私達の會話もこれで終りになりました、私はそれから夜を更かして以上の話に添加的な説明的な評釋を書いて居りました。

「あなたのお友達のおミッデンドルフは偉い方ですね、あの方は何うしてもあの方に同意しなければゐられないやうに温情に充ちて心から話をなさいますね」とイダ女公が言ひました、女公はミッデンドルフが幼稚園の事に就て語るのを始めて聞かれたのであります。

私達はリーベンスタインに幼稚園を建設する資金を給してくれたこの富籤に向つてこの溫き印象に負ふ所が特に多いのであります。これは間もなく事業に實際生活を與へた程種々な贈物や同情を以て裕かに支えられました、而して最大の贈物は公女達やマイニンゲンの女公やその姉妹なるヘツセのカラツネやイダム公女から贈られたのであり

ました。

フレーベルとミッデンドルフが贈物（それらの或る物は美しき美術製作品でありました）で蔽はれたテーブルを見た時、ミッデンドルフは非常に感じて言ひました、「是等の愛の贈物は私達が假令多くの場所に於て求めて與へられないことがあらうとも私達の事業が必要な支持に事缺いて失敗するやうなことはないといふ確信を懷くやうに私達に勇氣附けます、フランクフルトの國民協會から幼稚園に關する私の覺書に對して極めて貧弱な褒賞を受取つた時にも私は失望しませんでした。人が子供時代の極く初期から子供を教育するといふことが國民の政治的並びに道德的自由を持ち來すべき第一條件であるといふことを知る時がやがては來るでありませう」

私は答へて言ひました、「さうです、要められつつある政治的改革とこの教育の要求とが認められ味はれる時が來るのでありませう、けれども私達

の生きてゐる内にはそれはまだ望めますまい、何故ならば政治が人々の心をすっかり吸ひ寄せてゐますから子供のためのこの穏やかな植付は見逃されてしまふからであります」

「それならば私達は見逃されないやうに獨逸國中に是等の苗床を植付けなければなりません」とミッデンドルフが言ひました。

私は言ひました、「私はそのお手傳ひをしませう誰でも時勢を知るものは仕事といふものはたゞ話をしてゐるだけ考へてゐるだけのものではなく働くことをも含んでゐるといふことを知つてゐます私達の幼稚園とするによささうな家を一つ探しに出掛けやうではありませんか」

ワイマルも亦宮庭に幼稚園といふものゝ興味が入つたことに對してミッデンドルフに感謝しなければなりません、私の勢力によつて彼は一八四九年の秋に於てカイルハウから出て來て數日滞在し

講演を二度するやうにと招かれました。公會席上に於てなされた講演は多數の聴衆の興味を高く調子に引き上げました、而してその翌年ワイマルに開かれた幼稚園の維持に對してこの時根柢を置いたのであります、もう一つの講演は大公の宮邸内に於て公族ばかりお集りの席上で演じたものでこれがために私はフレーベルの主義を更に押し進めて行くために必要な資金を殿下達から頂きました、それから殊に當時の大女公(露西亞王女)の保護の下にあつた養育院に彼の専門を紹介することに於て殿下達のお蔭を得たのであります。

ミッデンドルフが始めて公ならぬ宮邸のお催しに出席して素直に氣取らずに而かもしつかりとして而して彼の癖として眼を半眼に見開いて泉のやうに湧き起つて來てすべての聴者の胸に浸み徹つて行く言葉を放つた時、手輕な撲實に馴らされてゐない群れの内に於てすべてよきものに對しては直ちに興味を持たれる大公は「まア何といふ鼓吹

的な人だらう」と叫ばれました。

ミツデンドルフは講演を終つてしまつた時に私に「うまく出来ましたらうか」と聞きました、私は私の心の底から「上出来でした」と言ふことが出来ました。

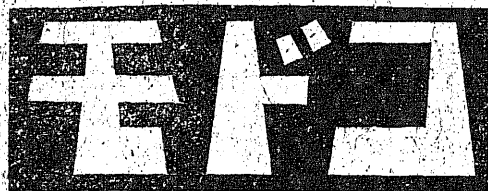
その翌年の夏(一八五〇年)私達は更に交際を深くするためにリーベンスタインで一緒になりました。是等の追懷を辿つて行きますと私達の思ひはミツデンドルフにまで運ばれますが更に彼の性格を語つたものにはヴェー、ランゲ氏のミツデンドルフの性格評があります、而してその中には美しい話が見えて居ります、それから少し経つてハインシュマンも彼の著書「フリードリッヒ、フレールの追懷」に於て彼の性格に就て書いて居ります。ディーステルウエヒも亦彼の「ライニツシエ、ブレツテルン」の中でミツデンドルフに關する斷片的な記事を公にして居ります、その中のあるものはディーステルウエヒの望に任せて私が寄稿したのは

であります。





# 顧問 高島平三郎先生



此の月刊「繪はなし」は幼い女の子にも男の子にも誠に良いお友達である。さし繪の綺麗なる事と片假名にて記事の教育的なるとは讀んで面白く大に爲になる家庭向の雑誌なり

◎子供を愛する家庭にはなくてはならぬ讀物なり

毎月一回 定價一冊金十錢郵税 最寄書店になくば  
 五厘六冊郵税共金五 本社へ御申込あね  
 一日發行 十八錢十二冊郵税 御注文は振替貯金  
 共金一圓十錢(前金) なければ尤も便利也

●郵便切手代用一割増●

東京小石川林町五七  
 振替東京二七九六三

コ  
ド  
モ  
社



# の一本白 年幼本白

## 報畫の供子き白面くし美

文學士 倉橋惣三先生監修  
 繪畫は 六畫伯の執筆

◎可愛いお子様を

美しく善く育てたいと思はれるお母様方の爲めに深い注意と多くの苦心を重ねて理想的に編輯せられ今度新たに生れたのはこの日本幼年です

◎可愛いお子様に

お與へになつて玩具やお菓子よりも喜ばれ面白がつて楽しむ間に感情を高尙にし美しき習慣を養ひ清き心の糧となるのはこの日本幼年です

◎可愛いお子様が

幼稚園から尋常小學でお習ひになつたことを喜び笑ひ興する間に知らず識らず復習し補習するのはこの日本幼年です

◎最後にお母様に

御注意を願ふのは日本幼年は文學士倉橋惣三先生の監修で六畫伯の彩筆になり紙數も多く印刷も鮮明で従來有りふれたものに全然超越して居ることです

定價 第一冊 十錢 前金 壹年前金六十三錢

婦人畫報  
 少女畫報  
 日本幼年

發行所 東京 京社

東京市京橋區鍛冶橋外 振替東京二一八番

# フレイベル會規則 (抄)

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレイベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ齎出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品

幼兒成績物展覽、會務ノ報告等ヲナス

一、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演

說、談話、協議、實驗等ヲナス

尙毎年四月廿一日特ニフレイベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク

一、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス

但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス

一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

## 本會々長

中川謙二郎

## 本會幹事 (イロハ順)

### 本會評議員 (イロハ順)

井村 くに	池田 トヨ	芳賀 晴
坂内 ミツ	和田 實	和田 くら
倉橋 惣三	安井 哲	福田 ふく
小向 きみ	雨森 釧	坂井 ふで

### 本會客員 (イロハ順)

乙竹 岩造氏	吉田 熊次氏	田中 ふさ氏
野口 幽香氏	榎山 榮次氏	藤井 利譽氏
下田 次郎氏	日田 權一氏	

伊澤 脩二氏	巖谷 季雄氏	岩谷 英太郎氏
波多野貞之助氏	細川 潤次郎氏	本間 辰藏氏
戸野 周次郎氏	大瀬 甚太郎氏	奥好 義氏
尾田 信忠氏	大久保 介壽氏	嘉納 治五郎氏
唐澤 光德氏	谷本 富氏	高島 平三郎氏
棚橋 源太郎氏	多田 房之輔氏	田中 敬一氏
中島 力造氏	中村 五六氏	野尻 精一氏
野上 俊夫氏	久留島 武彦氏	松本 亦太郎氏
松本 孝次郎氏	馬上 孝太郎氏	富士川 游氏
小西 信八氏	淺岡 一氏	雀部 顯宜氏
櫻井 光華氏	三島 通良氏	篠田 利英氏
東基 吉氏	瀬川 昌耆氏	尺 秀三郎氏
菅原 教造氏		

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回五日發行)  
 大正四年四月十日發行  
 婦人子ども 第十五卷第四號 納本渡

# 幼 稚 園 用 品

## 家 庭 用 玩 具

東 京 九 段

### フ レ ー ル 館

新築後工場も整頓致し店も精々片付き申候間益々  
 業務に奮勵仕り物品を精選し格價を最も低廉に  
 需に應じ可申候に倍舊の御愛顧を願上候

## 日 本 玩 具 研 究 會 會 員 募 集

會費は一ヶ月五拾錢にて研究した面白い御爲めになるよい玩具が毎月得られます(申込次第規則書送る)

### 本會評議員

巖谷 小波	甲賀 藤子	吉田 熊次
多田房之助	野口 ゆか	倉橋 惣三
久留島武彦	山脇 春樹	町田 則文
小西 信八	三土 忠造	三輪田 元道
莊司市太郎	森村 開作	

### 本會幹事

稻垣 知剛	和田 實	河野 清九
高市次郎	曾根松太郎	武藤 忠義
野村 忠寛	松田 茂	藤 五代策
岸邊 福雄	御園生金太郎	
申込所 東京九段	日本玩具研究會	